

経営比較分析表／団体全体（令和元年度決算）

岩手県

【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m ³ /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m ³)
法適用	工業用水道事業	54,498	中規模	2	19,928
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m ³ /日)	管理者の情報	
-	48.8	18	34,731	自治体職員	

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和元年度全国平均

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経営は厳しい状況にあるものの、一定の利益を確保し、経常収支比率は100%を超え、累積欠損金も無い状況です。
また、施設整備等に係る未払金の減等により、流動比率が改善しています。
企業債残高対給水収益比率や給水原価については、水源をダムとしたことなどにより設備投資が多額だったため、企業債残高や減価償却費等が高額となっており、類似団体平均値よりも高くなっている状況です。
契約率の減少はユーザー企業の使用廃止に伴うものですが、料金回収率が100%を上回っており、効率的な事業運営に取り組んだ結果となっています。

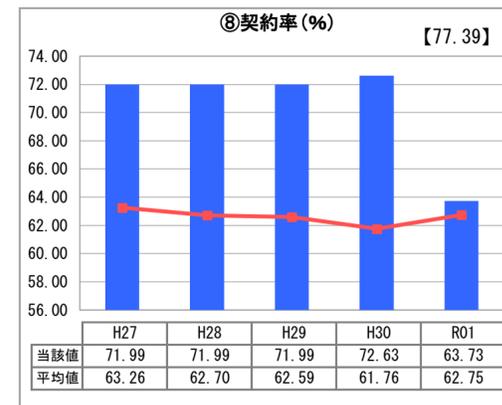
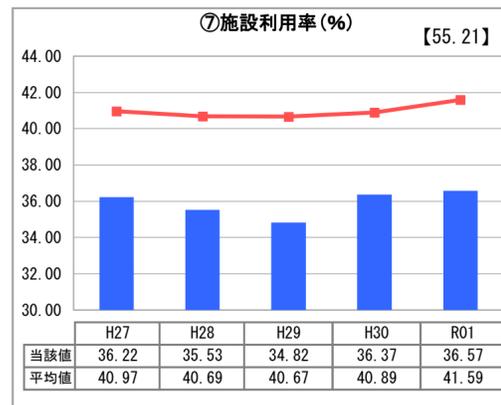
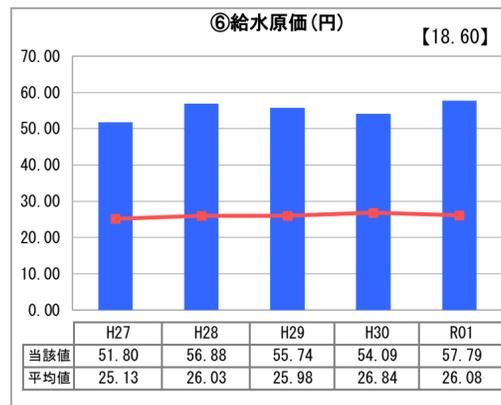
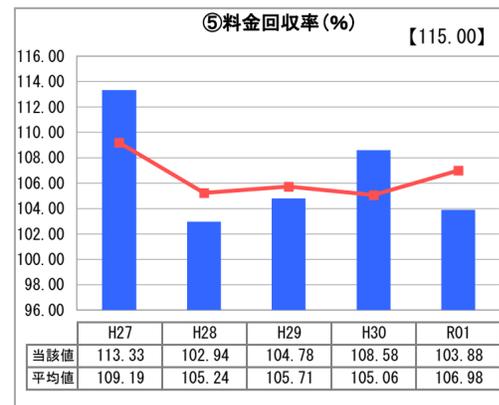
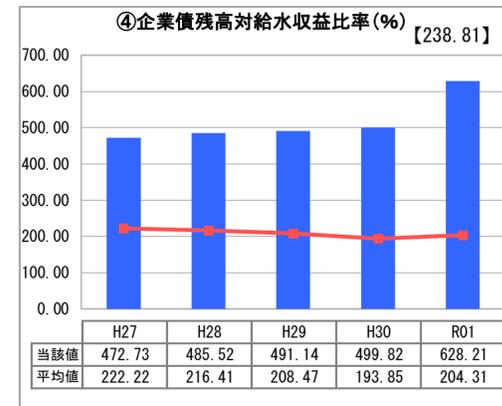
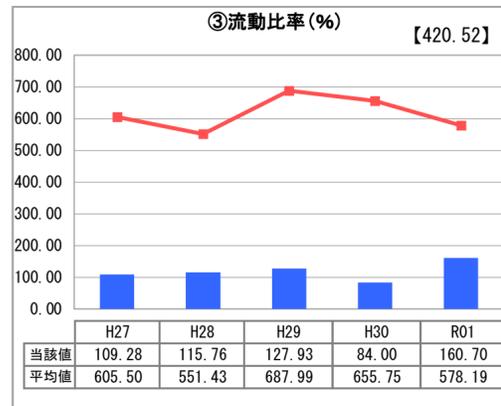
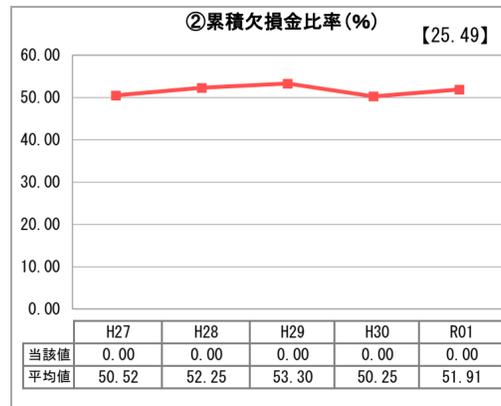
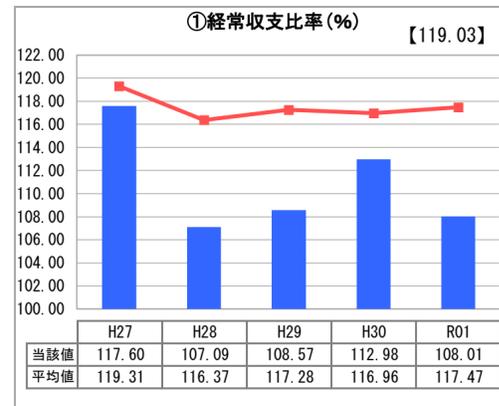
2. 老朽化の状況について

管路は法定耐用年数に到達していない状況ですが、施設の劣化状況やアセットマネジメント計画を的確に反映しながら、計画的な修繕・改良に取り組んでいます。

全体総括

経営は厳しい状況にあるものの、一定の利益を確保し、安定経営に努めているところです。
一方で、既存施設について施設利用率が低い状況で推移していることから、令和2年3月に策定した長期経営方針（2020～2029）及び第1期中期経営計画に基づき、水需要に応じた施設規模の検討や民間ノウハウの活用など、効率的な経営のあり方の検討とともに、安定的な事業運営に取り組んでいきます。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況

